

029

プロボノワーカーとの協業により
団地内の防災マニュアルを整備

#地域防災力

取組主体

公団住宅むつみ台団地自治会

従業員数

想定災害

実施地域

5人

火災等

東京都

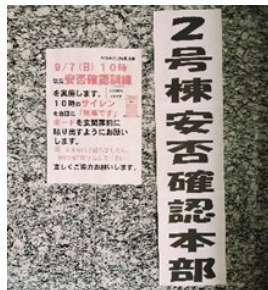
自治会役員が少数である中、プロボノワーカーとの協業により防災マニュアルを整備し、訓練や見守り活動等、防災対策を継続している。防災意識向上の他、コミュニティ強化へも効果が出ている。

1 取組の概要

- 公団住宅むつみ台団地自治会（以降、むつみ台団地自治会と表記）は、東京都練馬区と板橋区の境に位置する自治会である。むつみ台団地は1973年に入居開始した全3棟・1,261世帯を有する大型団地である。団地内では、近隣住民を含め数百人が参加する地区祭や餅つき大会といった行事等、様々なコミュニティ形成のための活動を行っている。本事例では、プロボノワーカーとの協働による防災マニュアルの整備プロジェクトについて取り上げる。
- 防災マニュアルの整備プロジェクトは、2021年10月～2022年2月に行われた。まず、プロボノワーカー6人がむつみ台団地自治会に対して3回に渡ってヒアリングを行い、団地の現状や課題を整理した。その内容を踏まえ、プロボノワーカーが検討・提案を行い、オンラインでの意見交換や現地視察を通じて修正を重ねながら、「むつみ台団地自治会役員の防災対策の役割分担表」を含む防災マニュアルが作成された。
- マニュアル作成後は、毎年9月に全戸を対象とした安否確認訓練を実施している。訓練は役員がスピーカーでサイレンを鳴らし、在宅者は練馬区災害時安否確認ボードを玄関ドアに貼り、各棟・各階の自治委員が各住戸のドアにボードが貼られているか確認するという内容である。参加率は70～60%で推移し、比較的高水準を維持している。
- 2023年からは、防災・防犯・高齢者安否確認のための活動として見守り活動を行っている。現在は20人程度の自治会員有志と共に運営しており、毎週1回、団地全体を巡回している。



練馬区災害時安否確認ボード



安否確認訓練の様子



地区祭の様子

参考：プロボノとは

- 社会的・公共的な目的のために、職業上の経験やスキルを活かして取り組む社会貢献活動を指す（出所：<https://www.servicegrant.or.jp/probono/>）。
- 本事例では、プロボノによる地域団体の支援プロジェクトのコーディネートを行っている認定NPO法人サービスグラント（以降、サービスグラントと表記）を通じてプロボノワーカーとの協働に至った。

《取組の検討・実施体制》

- プロボノワーカーとの協働による防災マニュアルの整備プロジェクト期間中は、むつみ台団地自治会の役員6人とプロボノワーカー7人の体制で検討を行った。
- 現在は、役員5人と自治会員は約400世帯で各種の活動を行っている。また、活動時には、各階から1人選出される自治委員58人が協力してくれている。

2 取組が始まった経緯・背景

- 2021年4月に、団地内で火災があり、一室が全焼、下の階が放水による水損被害に遭った。むつみ台団地自治会は集会場を避難所として開放し、被害に遭った方の仮住まいを独立行政法人都市再生機構（UR 都市機構）に交渉するなどの対応を行った。組織立った対応をしたわけではなく、立ち会った役員が対応するに留まっていた。

- むつみ台団地自治会としての防災に関する活動は、2012年に防災マニュアルを作成して全戸配布して以降、停止していた。2021年の火災を受け、災害時に適切な対応が取れるように体制を整えておくことの必要性を認識した。
- その後、サービスグラントにプロジェクト採択された。当初は団地のホームページを作りたいと考えていたが、採択後に運営側と調整した結果、より日常に密着した課題である防災対応について取り組むこととなった。

3 取組による効果・成果

- 外部専門家の参画により、団地内だけでは整理しきれなかった課題が可視化され、具体的な行動計画へと落とし込むことが可能となった。また、外部と協働する経験そのものが、自治会運営における発想の転換を促し、防災を軸とした住民参加の拡大や継続的な広報活動につながっている。
- 団地内全体の防災意識が向上し、居住者からの要望により行政からの助成金を活用して、各世帯の防災用品を共同購入した。災害時のトイレに関する対応や家具転倒防止対策等、次に取り組むべき課題の発見にもつながった。
- 居住者のコミュニティ形成への意識が向上した。安否確認訓練や餅つき等、団地内の行事への協力者が安定して30人程度得られるようになった。役員は少数だが、協力者によって円滑に自治会活動が行われるようになった。
- プロボノワーカーという団地外の専門家が協力してくれたことが、自治会役員にポジティブな驚きを与えた。従来の「団地のことは団地内で」という内向きの発想が変化し、積極的に外部と連携する発想が出るようになった。

4 周囲の声

- 安否確認訓練の参加者からは、「このような訓練をもっとやる必要がある」と積極的な意見が寄せられている。消火訓練や模擬災害体験等、定期的な実施を求める声が届いている。

5 直面した課題と対応

- プロボノワーカーの協力により防災マニュアルが作成されたが、それ以降にまだ大きな災害が発生していないため、いざという時にマニュアルに沿った対応ができるかは未知数である。実践的な活用方法を検討している。
- 自治会役員の高齢化に伴い、担い手不足が課題となっている。行事への協力者は増えたが、役員の代替わりが進んでいるわけではない。

6 今後の展望

- 家具転倒防止とトイレ対策を最優先課題として対応を進めたい。むつみ台団地は昭和48年に建設されたことから、家具が備え付けではないため、各世帯が自宅内での対策を講じる必要がある。個人レベルでの防災対策の重要性を広めていきたい。
- 災害時の自宅避難を前提とした体制を確立したい。そのため、トイレ対策を第二の課題として対応を進めたい。集合住宅の場合、災害時は下水が機能していることが確認できるまでトイレが使えなくなる。家庭内で排泄物を処理するための防災用品の準備と、ベランダでの一時保管方法について周知を続け、全世帯へ普及させたい。

担当者の声

災害が増加する中、早期に備えや対策を進めることで、居住者の方々に安心してもらいたいという想いがある。家具転倒防止対策やトイレ対策の他、訓練を繰り返し、いざという時に冷静に行動ができるよう、団地全体で準備を重ねていきたい。

問合せ先	動画	サイト URL
公団住宅むつみ台団地自治会	—	—

《本事例のポイント》

むつみ台団地自治会は、住宅数 1,261 世帯に対し役員 6 人と少数な中、プロボノワーカーの支援を受けて防災マニュアルを整備した。その後、定期的な安否確認訓練や見守り活動等、防災意識の向上につながる活動を継続し、実際に居住者の防災意識が向上している。人手が不足している中でも、外部と連携して防災意識の向上に取り組んだ点が、本事例の特徴である。